

# 発表題名 「新田町よこよこ会」

## 副題 ～地域特性を活かし広げる支え合い（平成28年度）～

発表者 施設種別・名称 : 特別養護老人ホーム花水木  
施設所在地 : 宮城県石巻市鹿又字八幡前15番  
実践研究チーム名 : 新田町困りごと支援隊

### 【施設・事業所・サービスの概要】

- ・ 特別養護老人ホーム花水木（地域密着型・定員29名）
- ・ ショートステイ花水木（定員18名）
- ・ 花水木介護センター（訪問介護、通所介護1日定員45名）
- ・ 居宅介護支援センター花水木
- ・ 石巻市河南地域包括支援センター
- ・ 花水木デイサービスセンターもとまち（1日定員15名）

### 【取り組んだ課題】

#### <要約>

この取り組みは平成27年度実践研究発表会で発表した内容の継続した取り組みとなっている。  
地域貢献事業の一貫として、花水木の所在する石巻市鹿又新田町地域における、日常生活における困りごとを抱えるひとり暮らし高齢者を支援する。

#### <背景>

- ① 高齢者のみの世帯が増加している。
- ② 地域の高齢者がさまざまな困難に直面している（地区会長より）
- ③ 横と横のつながりが減少してきている。（老人クラブ会長より）

↓

これらの問題を解決するために「新田町よこよこ会」（以下、よこよこ会という。）を結成

平成27年度までの取り組みでの課題

- ・ 「よこよこ会」代表者未選出

サービス実施主体は確立したが、代表者の引き受け手がいなかった。

理由：「役」は嫌われる風潮

花水木から代表者を選んだ場合、花水木に頼りがちとなる可能性があるので地域住民から代表者が出た方がより良い形になるとのアドバイス（石巻市）

＝地域住民が一番の主体

- ・ 活動資金の調達先

サービスを提供した会員に対し、30分毎100円としたが、その出所は？

↓ ※現在、石巻市は介護予防・日常生活支援総合事業の内、「訪問型サービスB」を行っていない

補助金の活用により解決（平成28年度地域貢献事業助成金 宮城県老人福祉施設協議会）

## 【具体的な取り組み】

### 1. 会員と地域との交流

①よこよこ会の女性（60歳代）会員と宮城県石巻北高等学校生徒の交流

フラワーアレンジメント作成

②よこよこ会と地域高齢者の交流

作成したフラワーアレンジメントの贈呈

③よこよこ会と花水木職員との交流

花水木にて実施する内部研修会（感染症研修、介護技術研修など）への参加

### 2. 地域への周知活動

利用される可能性のある方々および近隣の郵便局や病院等に案内チラシを設置して、本活動の周知を図った。また、案内チラシと、よこよこ会の事務局である花水木の電話番号を入れたボックスティッシュの配布を行った。

### 3. 困りごと支援の聞き取り

自ら電話を出来ない高齢者もあることから、ボックスティッシュを配布した高齢者の自宅を再訪問し、困っていることがないか、手伝ってほしいことはないかの声掛け活動をした。

○聞き取った困りごとのニーズ

- ・ストーブの灯油の給油、除雪作業、窓拭き、電球の交換、傾聴サービスしているか（問い合わせ）  
受診支援

○訪問と同時に行った活動

- ・ゴミの分別、はがきの投函、灯油を2階へ運搬、傾聴

## 【活動の成果と評価】

・地域特性を把握し発揮

- 地域の人材や機関を活用できた
- 当該地域より代表者（老人クラブ会長であり、奥様は当施設を定年退職した看護師）を決定できた
- 会としての活動が活発化した  
（昨年度からの課題であった「会長」が決定したことにより、活動する回数が増えた。）

・会の主体をつなげることができた

- 3主体（鹿又新田町地区住民・宮城県石巻北高等学校・花水木）
- 活動に参加した高校生を、二年連続して新規採用することができた

・社会福祉法人としての役割

地域における高齢者の困りごとを支援する体制を整えたことにより、希薄化の状態にある地域の横と横のつながりを拡大していけるのではないかと。また、地域の困りごとを当該地域で解決できる仕組みづくりの一步となったのではないかと。

## 【今後の課題】

○困りごと支援要求の多様化

会員が聞き取った困りごとの内、その場で支援できる内容であれば会員各々の判断で行い、複雑な内容の場合は、どこからどこまで、よこよこ会が支援するかを話し合っただけで会長が判断する。しかし、聞き取った情報には、要支援者や認知症の方もいるため、ケアマネージャーや河南地域包括支援センター（当法人）との連携も必要である。

○情報交換

会員が平等のサービスを提供することができるように、情報交換を行う。